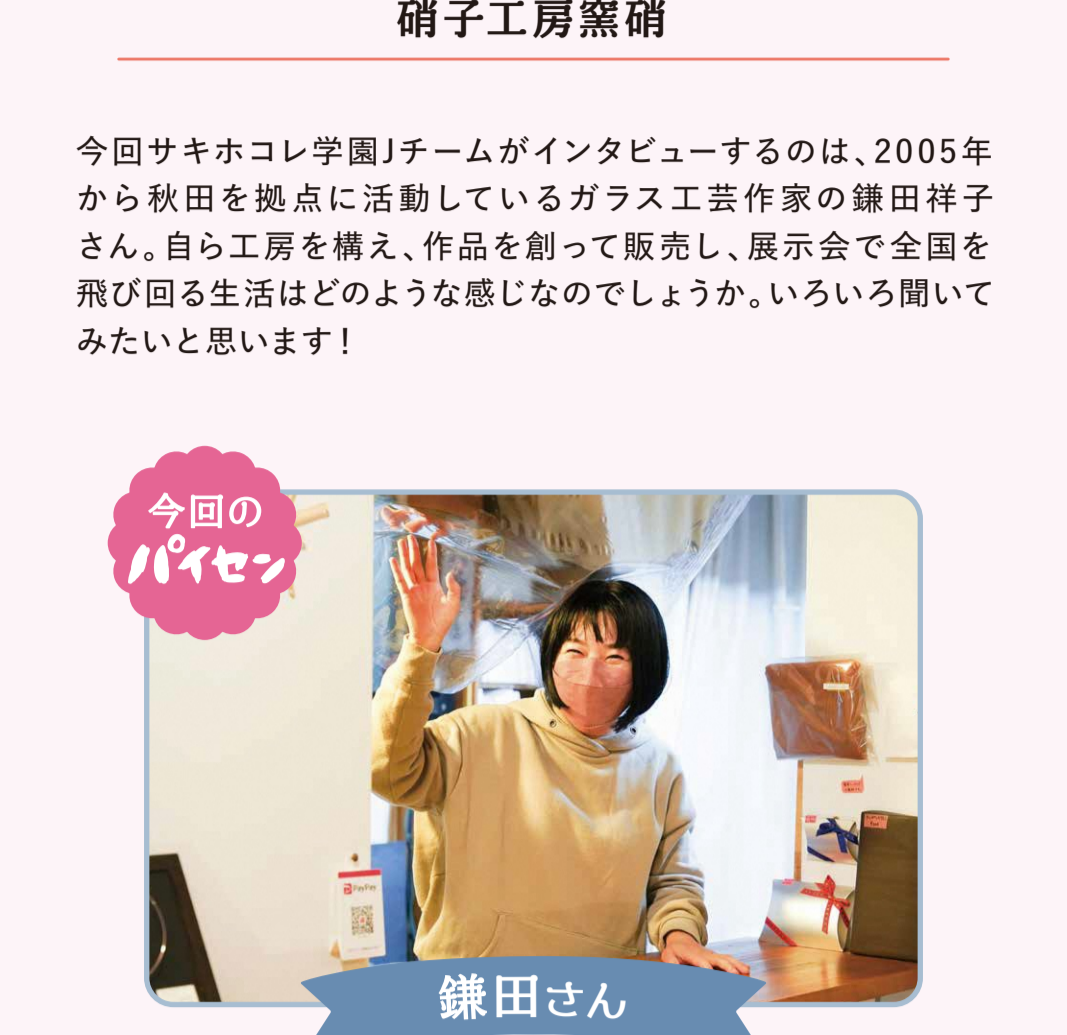


教えて  
パイセン!  
サキホコレ学園による  
秋田暮らしインタビュー

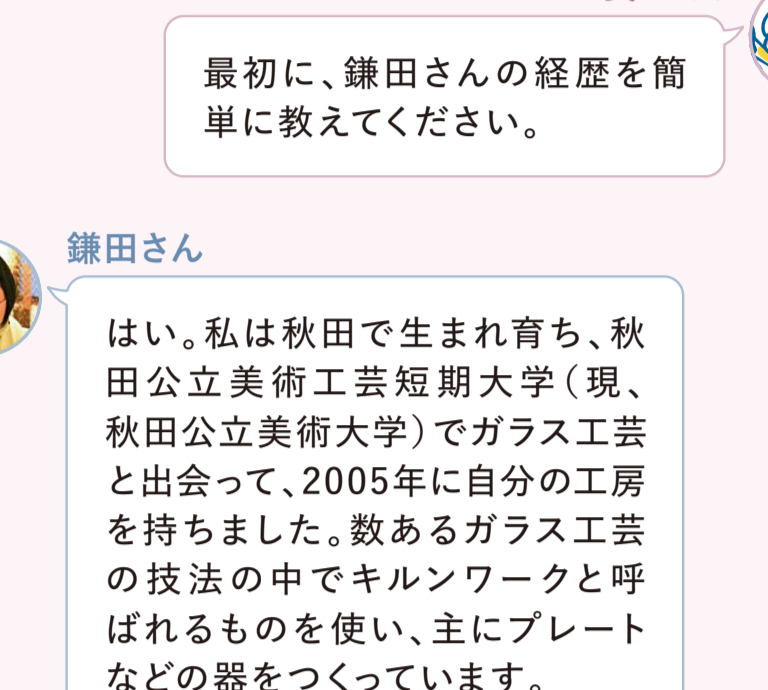
仕事もプライベートも充実した秋田ライフを送りたい。  
学園のメンバーが人生の『パイセン』に、  
仕事のこと、プライベートのこと、何でも聞いちゃいました!



硝子工房 窯硝

今回サキホコレ学園Jチームがインタビューするのは、2005年から秋田を拠点に活動しているガラス工芸作家の鎌田祥子さん。自ら工房を構え、作品を創って販売し、展示会で全国を飛び回る生活はどのような感じなのでしょうか。いろいろ聞いてみたいと思います!

今回のパイセン



鎌田さん

Jチーム  
本日はよろしくお願ひします。

鎌田さん  
よろしくお願ひします。



Jチーム  
最初に、鎌田さんの経歴を簡単に教えてください。

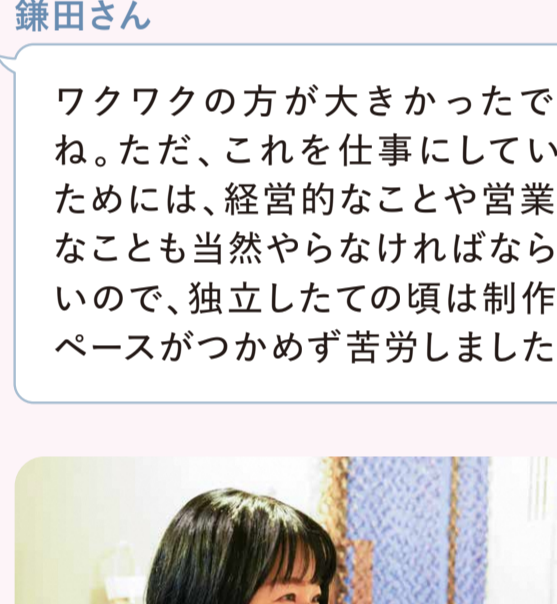
鎌田さん

はい。私は秋田で生まれ育ち、秋田公立美術工芸短期大学(現、秋田公立美術大学)でガラス工芸と出会って、2005年に自分の工房を持ちました。数あるガラス工芸の技法の中でキルンワークと呼ばれるものを使い、主にプレートなどの器をつくっています。

Jチーム  
キルンワークという言葉、初めて聞きました。

鎌田さん

ガラスと金属の化学反応を利用して色を変化させたり、模様を描いたりするんです。よく知られた吹きガラスがスピード勝負なのに対し、こちらはコツコツと何日もかけて制作するのが特徴です。



Jチーム  
お店に飾られていた作品、どれもステキでした!工房を構えたのは、大学を出てすぐですか?

鎌田さん

卒業後3年間は、秋田公立美術工芸短期大学で職員として働いていました。工房を構えたのはそのあとです。

Jチーム  
有名な工房に入ったり、誰かのアシスタントになったりすることは考えませんでしたか?

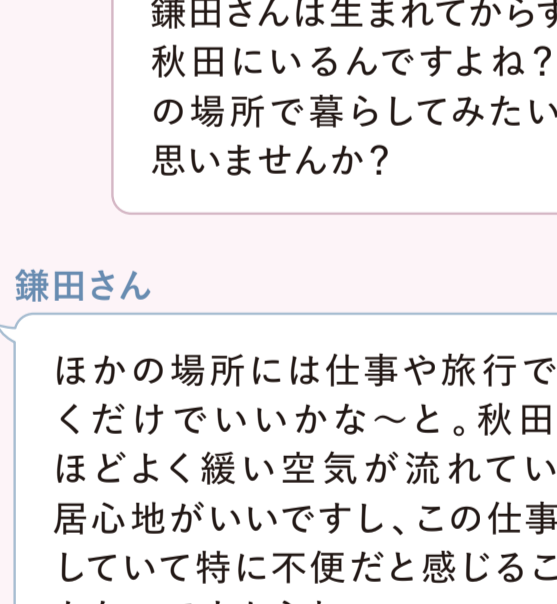
鎌田さん

もちろん考えました。ですが「自分のつくりたいものを形にしたい!」という思いが何にも勝り、最初から一人でやっていくことにしたんです。若さゆえの勢いもあったと思います(笑)

Jチーム  
不安はありませんでしたか?

鎌田さん

ワクワクの方が大きかったですね。ただ、これを仕事にしていくためには、経営的なことや営業的なことも当然やらなければならないので、独立したての頃は制作のペースがつかめず苦労しました。



Jチーム  
普段、どのような感じで1日を過ごしているか聞きたいです。

鎌田さん

ものづくりに専念する日があったり、事務作業に集中的に取り組む日があったり。展示会や県外のお客さまとの打ち合わせで工房に入らない日もあります。

Jチーム  
全部自分で決められるがゆえに、いつまでも仕事をしようとは思っていませんか?

鎌田さん

工房を設立した当初は、それをやりがちでした。だけど当たり前ですが、際限なく仕事をしてしまうと疲れがたまっていくんですよ(笑)なので今はしっかり時間で区切りを付けて、メリハリのある生活を心がけています。

Jチーム  
お休みの日は何をしていますか?

鎌田さん

お酒を飲みながらぼーっとしていることが多いです(笑)少し前までは登山とかもしていたのですが、最近はあまりアクティブなことはしなくなりましてね。体を動かすとか頭もスッキリして確かに気持ちいいのですが、自分はぼーっとしているときの方が、新しい作品のアイデアを思いつきやすいことも分かったので。

Jチーム  
鎌田さんは生まれてからずっと秋田にいますよね?ほかの場所で暮らしてみたいとは思いませんか?

鎌田さん

ほかの場所には仕事や旅行で行くだけでいいかな〜と。秋田はほどよく緩い空気が流れていて居心地がいいですし、この仕事をしていて特に不便だと感じることもないですからね。

Jチーム  
工房を構えた17年前と今とで、何か変わったことはありますか?

鎌田さん

ガラス工芸というものに対する世間一般の理解が広がった気がします。17年前の秋田には、暮らしを彩る器としてガラスの作品を選ぶ人はあまりいませんでしたが、今はあらかじめ情報を持って来店される方がだいぶ増えました。

Jチーム  
きっと、鎌田さんの活動のおかげですね!

鎌田さん

決してそんなことはないと思いますが、もし自分の創作活動が、誰かのガラス工芸に対する興味につながっていたとしたらうれしいです。

Jチーム  
鎌田さんは自分の作品を飾ってほしいですか?それとも使ってほしいですか?

鎌田さん

器は使われてこそ価値が出ると思っているので、どんどん普段使ってほしいですね。

Jチーム  
お弟子さんはとらないんですか?

鎌田さん

たまに考えますが、今はまだやりたいこと、試してみたいことがあるので、もう少し一人でやっていたいかな〜と思っています。いずれお弟子さんをとることもなっても、体が言うことを聞かなくなるまでは、ものづくりと向き合っていくつもりです。

Jチーム  
頑張ってください、必ずまた遊びに来ます!本日はお忙しいところ、ありがとうございました!



作家と聞くと気難しい人が多いイメージでしたが、鎌田さんは秋田のように、ほどよく緩い空気をまとった笑顔のステキな女性でした。自分の表現を真摯に追い求める姿勢、カッコいいです。秋田でガラス工芸を楽しむ文化がもっと広がっていくように、これからも頑張ってください!